

| 高等部教育目標 | |
|---|----------------------------------|
| イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う | |
| 探究型カリキュラム教育/学習目標 | |
| SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける | |
| 探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning | |
| 1. 自分事として <オーナーシップ/一人称> | 2. 社会/実践を通して <PBL 型/アクション> |
| 3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心> | 4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり> |
| 5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性> | |
| 上位学習目標 | |
| <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で用いられている AI 等のテクノロジーが持つ機能や役割、実例などの基礎的な情報を自分の言葉で説明することができる ・簡単なプログラムを使って実際に AI を動かすことができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題について調べ、AI 等のテクノロジー活用した解決方法を提案することができる ・AI が人々、社会にとって正しく活用されるための倫理的判断をすることができる ・テクノロジーが人間個人、社会に与える影響を考察することが出来る ・上記事項について、他者に適切に提示/説明することができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI や新たな技術開発、イノベーションについてより深く知ろうとし、それをういて解決しようとする姿勢を持つことが出来る ・社会的課題に向き合う中で、AI などに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、人間の本来の生き方について追求することができる | |
| 下位学習目標 | |
| <p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①AI とはどのようなシステム、プログラムで成りたっているのか。AI についての概要を説明できる。 ②社会で利用されている AI の活用例について知る。 ③AI に関係するプログラミングについて学び、操作できる。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①SDGs の到達目標達成のため、身近にある解決すべき具体的な課題について現状や原因などを総合的に述べるができる ②SDGs 到達目標達成のため、身近にある解決すべき問題の解決策を考えることができる ③解決策において AI の特性を理解して解決策を考えることができる ④グループの考えを他のメンバーにわかりやすく示すことができる ⑤他のグループや個人の意見に対して、本質的な質問や議論ができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①個人の考えをグループで共有しグループとしての考えに昇華・統合できる ②AI の利用により発生する倫理的問題について理解し、本質的な議論や対策の検討ができる。(自由やプライバシー、人権などの概念との関連性) | |

| 授業日 | 10/17(火) | 2 学期授業回数 | 5 回目 / 全 9 回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|---|--|-------------------------------------|---|---|---|---|---|--------------------------------|---|---|-------------------------------------|---|------------------------|----------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|---------------------|----------------|-------------|-----------------|---------------|---------------------------------|---------------|------------|------------|--------|-----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|----------------------------|----------------------------|----|------------|----------|--------------------------|---------------------------|
| 本時 学 習目標 | 主なターゲット【知識・技能】①②③ 【思考力・判断力・表現力】②③④⑤【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ・実際に操作することを通じ、AIの基本的なしくみを知る ・図形を認識するAIブロックを用いたアプリを計画し、アプリの構造や画面の遷移を論理的に考えることができる ・アプリをどのようなターゲットにどのようなメリットをもたらせるか考えることができる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 時間 授業内 容 | 25 分 75 分 90 分 | 各班でプレゼンの最終準備 各班 3 分でアプリについてプレゼンと質疑 5 分×8 班 関西学院大学 巳波教授とゼミ学生による総評 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方 法 | 10月17日(火) 画像認識AIブロックを用いたアプリの作成 発表 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> <th>0</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目的 ①アプリを使用する 目的を示すことができた</td> <td>対象者ははっきりと示し、 アプリによって達成する目的を明確に 説明できた。</td> <td>対象者はあいまいだが アプリにより達成する目的は明確に 説明できた</td> <td>対象者ははっきりと示したが アプリによる目的があいまいであった。</td> <td>対象者があいまいで、 アプリにより達成する目的も 説明できていない</td> </tr> <tr> <td>内容 ①調査 ②目的に沿っている</td> <td>目的を達成するための適切なアプリ 作成できた。</td> <td>目的を達成するための適切なアプリ だが、完成に至らなかった</td> <td>目的を達成するための適切なアプリ ではないが、アプリは完成できた</td> <td>目的を達成するための適切なアプリ 出なく、アプリも完成できてない</td> </tr> <tr> <td>構成 ①論理性 ②適切な量</td> <td>十分、論理的に構成されている</td> <td>論理的に構成されている</td> <td>論理的な構成が少し不足している</td> <td>論理的な構成ができていない</td> </tr> <tr> <td>プレゼン 資料 ①文字の大きさ ②図表的確さ</td> <td>十分に説得力ある資料である</td> <td>説得力ある資料である</td> <td>説得力が不足している</td> <td>説得力がない</td> </tr> <tr> <td>プレゼン 姿勢 ①視線 ②声量 ③スピード</td> <td>堂々と視線を見ながら声量も 十分に適切なスピードで授業できた</td> <td>視線や声量、話すスピード共に 一定のレベルに達している</td> <td>視線、声量、話すスピードを改善 する必要がある</td> <td>授業をする態度全体を大きく改善する 必要がある</td> </tr> <tr> <td>時間</td> <td>時間配分が適切である</td> <td>ほぼ時間内である</td> <td>時間が少し超過している、あるい は少し短い</td> <td>時間が大幅に超過している あるいは大幅に短い</td> </tr> </tbody> </table> 上記のルーブリックによるプレゼンの評価と学びの記録 | | | | 3 | 2 | 1 | 0 | 目的 ①アプリを使用する 目的を示すことができた | 対象者ははっきりと示し、 アプリによって達成する目的を明確に 説明できた。 | 対象者はあいまいだが アプリにより達成する目的は明確に 説明できた | 対象者ははっきりと示したが アプリによる目的があいまいであった。 | 対象者があいまいで、 アプリにより達成する目的も 説明できていない | 内容 ①調査 ②目的に沿っている | 目的を達成するための適切なアプリ 作成できた。 | 目的を達成するための適切なアプリ だが、完成に至らなかった | 目的を達成するための適切なアプリ ではないが、アプリは完成できた | 目的を達成するための適切なアプリ 出なく、アプリも完成できてない | 構成 ①論理性 ②適切な量 | 十分、論理的に構成されている | 論理的に構成されている | 論理的な構成が少し不足している | 論理的な構成ができていない | プレゼン 資料 ①文字の大きさ ②図表的確さ | 十分に説得力ある資料である | 説得力ある資料である | 説得力が不足している | 説得力がない | プレゼン 姿勢 ①視線 ②声量 ③スピード | 堂々と視線を見ながら声量も 十分に適切なスピードで授業できた | 視線や声量、話すスピード共に 一定のレベルに達している | 視線、声量、話すスピードを改善 する必要がある | 授業をする態度全体を大きく改善する 必要がある | 時間 | 時間配分が適切である | ほぼ時間内である | 時間が少し超過している、あるい は少し短い | 時間が大幅に超過している あるいは大幅に短い |
| | 3 | 2 | 1 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目的 ①アプリを使用する 目的を示すことができた | 対象者ははっきりと示し、 アプリによって達成する目的を明確に 説明できた。 | 対象者はあいまいだが アプリにより達成する目的は明確に 説明できた | 対象者ははっきりと示したが アプリによる目的があいまいであった。 | 対象者があいまいで、 アプリにより達成する目的も 説明できていない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内容 ①調査 ②目的に沿っている | 目的を達成するための適切なアプリ 作成できた。 | 目的を達成するための適切なアプリ だが、完成に至らなかった | 目的を達成するための適切なアプリ ではないが、アプリは完成できた | 目的を達成するための適切なアプリ 出なく、アプリも完成できてない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 構成 ①論理性 ②適切な量 | 十分、論理的に構成されている | 論理的に構成されている | 論理的な構成が少し不足している | 論理的な構成ができていない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| プレゼン 資料 ①文字の大きさ ②図表的確さ | 十分に説得力ある資料である | 説得力ある資料である | 説得力が不足している | 説得力がない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| プレゼン 姿勢 ①視線 ②声量 ③スピード | 堂々と視線を見ながら声量も 十分に適切なスピードで授業できた | 視線や声量、話すスピード共に 一定のレベルに達している | 視線、声量、話すスピードを改善 する必要がある | 授業をする態度全体を大きく改善する 必要がある | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 時間 | 時間配分が適切である | ほぼ時間内である | 時間が少し超過している、あるい は少し短い | 時間が大幅に超過している あるいは大幅に短い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 宿題指 示 | 学びの記録の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |